

調布市基本構想原案（案）

～ともに生き ともに創る 彩りのまち調布～

令和4年11月

調布市

目 次

第 1 章	策定に当たって	1
第 1 節	策定の背景	1
第 2 節	策定の意義・目的	3
第 3 節	まちづくりの潮流と課題	4
第 2 章	まちの将来像	7
第 1 節	まちづくりの基本理念	7
第 2 節	まちの将来像	8
第 3 節	目標年度	8
第 4 節	人口規模	8
第 5 節	まちづくりの基本目標	9
第 3 章	分野別の将来像とまちづくりの基本方向	10
第 1 節	基本目標 1【防災，防犯】 安全に安心して住み続けられるために	10
第 2 節	基本目標 2【子育て支援，学校教育，子ども・若者】 安心して子どもを産み育てられ，将来を担う子ども・若者が力を発揮できるために	11
第 3 節	基本目標 3【福祉（高齢者福祉・障害者福祉・地域福祉），健康づくり】 みんなで支え合い，いつまでも心穏やかに暮らすために	12
第 4 節	基本目標 4【生涯学習，スポーツ・レクリエーション】 学びやスポーツを通じ，だれもが充実した毎日を過ごすために	13
第 5 節	基本目標 5【共生社会（地域コミュニティ・人権・LGBTQ・多文化共生），平和】 多様性を認め合い，安心して自分らしく暮らせるために	14
第 6 節	基本目標 6【産業（創業支援・地域経済），観光，芸術・歴史文化】 調布ならではの魅力にあふれ，活気に満ちたまちにするために	15
第 7 節	基本目標 7【市街地整備（駅周辺・住宅・景観），交通環境・道路整備】 地域の特徴を活かした快適で利便性に富むまちをつくるために	16
第 8 節	基本目標 8【緑・農地・水辺・公園，環境保全】 豊かな自然と人が共生する，持続可能なまちをつくるために	16
第 4 章	まちの将来像の実現に向けて	17
第 1 節	市民が主役のまちづくり	17
第 2 節	市民のための市役所づくり	17
第 3 節	計画的な行政の推進	18

第1章 策定に当たって

第1節 策定の背景

調布市は、5次にわたる総合計画に基づき、総合的かつ計画的なまちづくりに取り組んできました。とりわけ、平成24年8月の京王線地下化の実現を契機として、**中心市街地における**南北一体の都市基盤整備を着実に進めるなど、**調布のまちの骨格づくりを積極的に推進して参りました。**

また、平成25年度からの第5次総合計画期間においては、感染症や自然災害などの突発的な事象への対応も図りながら、計画に位置付けた各種事業の着実な推進に最大限取り組んできました。そのような中、ラグビーワールドカップ2019日本大会及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会**（以下、「東京2020大会」という）が調布で開催され、**まちづくりへの多面的効果をもたらす有形・無形のレガシー創出のため、多様な主体と連携しながら、ソフト・ハード両面での取組を展開してきたところです。

近年の市を取り巻く社会情勢に目を向けると、気候変動の影響による災害の激甚化・頻発化や、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量「実質ゼロ」を目指すゼロカーボンシティの実現に向けた機運や多様な性の在り方の尊重をはじめとした人権に関する課題への関心の高まりなど、社会全体で取り組むべき重要な課題は新たな局面を迎えています。

そうした中、一昨年来、世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルスの蔓延は、市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼしています。また、市民の生活様式の変化に伴い、デジタル化が急速に進展したことから、行政サービスのデジタル化が求められています。

国際社会においては、ロシアがウクライナへの軍事的な侵攻を行い、子どもを含む多くの尊い命が奪われるという悲惨な事態が発生したことを受けて、平和を希求する思いは、より一層高まっています。

他方、日本全体では既に人口減少・少子高齢社会を迎えており、調布市の総人口は、現在の微増傾向から、徐々に減少局面に転じるとともに、特に65歳以上の高齢者数の増加によって、人口構造が大きく変化し、様々な影響が予測されます。

持続可能なまちづくりや地域活性化を図るため、国際社会全体の共通目標であるSDGsの達成や国全体の共通課題である地方創生に向けた取組などの一層の推進が重要となります。

こうした多様化・複雑化する課題に対し、幅広い市民の参加はもとより、NPO・企業・大学など多様な主体との協働による**共創※**の取組の必要性は、今まで以上に高まるものと考えます。

このような変化の激しい時代にあって、まちの将来像を共有することで、私たちが一丸となって、次世代に誇りと自信をもって引き継ぐことができる、夢と希望に彩られた未来の調布の実現を目指すものです。

※「共創」とは

市において多様化・複雑化している課題や市民ニーズに対応していくため、多様な主体と行政が知恵を出し合い、ともに考え、ともに行動するこれまでの参加と協働によるまちづくりを
発展させ、産学官民の連携により、それぞれが持つ知見や技術、ノウハウを活かしながら新たな
価値やサービスを創造することと捉えています。

第2節 策定の意義・目的

日本国憲法が掲げる地方自治の本旨にのっとり、調布市における自治の基本理念及び市政運営の基本原則を明らかにし、自治によるまちづくりを進め、もって活力ある豊かな地域社会を実現するため、調布市自治の理念と市政運営に関する基本条例を制定しました。

これにより、調布市は、総合的かつ計画的に市政を運営するため、市民参加の下、まちの将来像を示す基本構想及びその実現を図る基本計画を策定します。

この基本構想の策定に当たっては、市民と市職員等で構成する検討組織として、「調布市基本構想策定推進市民会議」を設置し、基本構想の案づくりを協働で進めてきました。

このような過程を経て策定するこの基本構想は、市民と市が共に手を携え、わたしたちの総力を結集して実現を目指すまちの将来像などを明らかにしたものであり、次のような意義・目的を有しています。

1 まちづくりの目標を共有する基本構想

調布市は、この基本構想に掲げたまちの将来像などを市民、議会、行政がしっかりと共有し合い、それぞれがお互いの責任と役割を果たしながら、だれもが将来に夢や希望を持ち、いつまでも安全・安心に暮らせる地域社会の実現に向けて、より一層参加と協働のまちづくりを推進していくこととします。

2 まちづくりの指針となる基本構想

この基本構想は、これまで積み上げてきた調布市のまちづくりの成果を引き継ぎつつ、新たなまちの将来像として8年後の令和12（2030）年までの目標を定め、その目標に向けた針路を総合的に示すものであり、市政経営における行財政の計画的運営や個別の施策、事業を推進するうえでの指針となります。

第3節 まちづくりの潮流と課題

今後のまちづくりを進めるうえでは、様々に変化する市政を取り巻く状況や社会経済情勢等の潮流を踏まえ、その時々における調布のまちの地域課題や市民ニーズに的確に対応していく必要があります。

1 人口構造の変化

我が国全体では既に、総人口減少、更なる少子高齢化が進行しています。

調布市は、本基本構想期間において、総人口に加え、年少人口、生産年齢人口ともにピークを迎え、老年人口は引き続き増加傾向を見込んでいます。また、1973年前後に生まれた、いわゆる団塊ジュニア世代が年齢を重ねることで、市における高齢化率は一段と高まることを見込まれます。

こうした人口構造の変化に伴い、社会保障関係経費の増大など、市政における多方面での影響が予測されます。このような状況においても、豊かで活力あるまちとして発展していくためには、地方創生の視点を踏まえ、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりや、高齢者が生きがいを持って暮らせる社会づくりを進めていくことが必要です。さらに、まちの活力や賑わいを維持・向上させるためには、商業・観光振興や起業支援などに加え、在学在勤者や買い物・観光等で調布を訪れる昼間人口、関係人口を増やす施策に取り組むことが重要となります。

2 これまでのまちづくりの成果を一層の利便性向上、賑わいにつなげ、魅力あふれる豊かなまち調布を実現

京王線の地下化を契機とする南北一体の街づくりにおいて、今世紀の調布のまちの骨格として、都市基盤整備や複合商業施設の開業など、ソフト・ハード一体となったまちづくりを大きく前進させてきました。今後、調布駅前広場整備や鉄道敷地整備が完成することにより、これまでのまちづくりの成果が実を結ぶ大きな節目を迎えることとなります。

引き続き、自然と共生し、快適で住みよいまちとしての魅力を高めていくため、地域の特性を活かした都市基盤整備と併せ、住環境の整備に取り組んでいく必要があります。

3 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシー

世界的スポーツ大会であるラグビーワールドカップ2019日本大会、東京2020大会が調布のまちで開催されたことによる、まちづくりの多面的な効果をレガシーとして、継承・発展させていく必要があります。

とりわけ、パラリンピックが市内で開催されたことを受け、障害の有無に関わらず、誰もが住み慣れたまちで安心して暮らし続けられる共生社会の一層の充実に向け、「パラハートちようふ」のキャッチフレーズの下、様々な分野で取組を展開していく必要があります。

4 新型コロナウイルス感染症対策・市民生活支援・地域経済対策

長引く国内経済の低迷に加え、新型コロナウイルスの感染拡大等により、市民生活や市内経済に大きな影響が生じています。

新型コロナウイルスの感染拡大は、市民生活や地域経済に非常に大きな影響を及ぼし、社会及び市民の意識や生活様式に変化をもたらしました。

国や東京都の方針や取組と連動しながら、「感染症拡大防止に向けた取組」、「市民生活及び

子どもたちへの支援」,「地域経済への支援」の3つの柱(取組)を基軸として,市民一人一人の命と健康,安全と安心を守ることを第一に,市民生活支援としてセーフティネットを有機的に機能させるとともに,地域経済への影響を的確に把握しながら,国や東京都の対策をはじめ,関係機関との連携の下,様々な対策に取り組む必要があります。

引き続き,国や東京都の動向を注視しながら,市内における「感染症の拡大防止」と「社会・経済活動の維持・再活性化」の両立に必要な対策を迅速かつ的確に実施していく必要があります。

5 防災・減災のまちづくり

令和元年台風第19号では,市制施行以来初となる,避難勧告^{*}を発する風水害となり,市内で床上浸水などの多数の被害が発生しました。気候変動に伴い激甚化・頻発化する風水害や暑熱への対策が求められています。

東日本大震災は,調布市の市民生活にも大きな影響を及ぼし,また,首都直下地震が,近い将来において高い確率で発生することも予測される中,災害への備えや対応について市民の意識がより一層高まっています。

まちの防災機能の向上のため,都市計画道路や生活道路の計画的な整備を進めるとともに,旧耐震基準により建築された住宅の耐震化を促進する必要があります。

いっどこで起きるか分からない災害による被害を最小限に抑えるため,自助・公助での備えに加え,産学官民連携による共助の取組を推進することで,これまで以上に市民が安全・安心に暮らせる調布のまちづくりを進める必要があります。

日常的に使用・提供している,教育・スポーツ・環境分野等における施設機能や市民サービス,システム,エネルギーなどを,平常時だけでなく災害時等の非常時においても活用できるように整備するフェーズフリーの考え方に基づくまちづくりに取り組む必要があります。

※令和3年5月の災害対策基本法の改正により「避難勧告」は廃止され,現在は「避難指示」となっています。

6 ゼロカーボンシティ調布の実現

近年,世界規模で気候変動や生物多様性の損失等の環境劣化が極めて問題視されている中,国際的に脱炭素社会の実現に向けた機運が高まっています。今後,2050年カーボンニュートラルの実現に向け,国を挙げて温室効果ガス排出量の削減に向けた取組が活発化していくと見込まれる中,行政が規範となり率先して行動に取り組むとともに,市民の省エネルギーに配慮したライフスタイルや,フードドライブを通じた食品ロスの削減,事業者の環境に配慮した経営,事業活動の普及等を促進するための仕組を整える必要があります。

また,わたしたちの暮らしにうるおいややすらぎを与える自然環境は,失われつつあり,自然と調和したまちづくりを進めていく必要があります。市内の貴重な自然を次世代に引き継ぐために,水と緑の保全や緑化を推進するとともに,脱炭素・循環型社会の形成に向けた取組を市民,事業者及び行政が連携,協力し,実践することが求められています。

7 市民サービス・行政・地域社会のデジタル化の推進

新型コロナウイルスの感染拡大と相まって,国や東京都は相次いで,デジタル化に関する方針(デジタル田園都市国家構想,Society5.0)を打ち出す中,市としても,行政手続きや

市民サービスのデジタル化が求められており、デジタルディバイド対策に十分な配慮を行いつつ、スマートシティの推進を視野に、デジタル技術やデータを活用した市民の利便性の向上を目指し、積極的な取組を推進していく必要があります。

8 共創のまちづくり

多様化・複雑化する行政課題や市民ニーズに的確かつ柔軟に対応するためには、行政が様々な主体と協力しながら施策を展開していくことが不可欠です。その中で、SDGsに掲げられた各目標の達成に資する取組を推進していく必要があります。

調布市では、福祉、環境、防災などの様々な分野で市民や団体などが活発に活動しており、今後も、こうした多様な主体と行政とが適切な役割分担のもと、ともに考え、ともに行動する、参加と協働による共創のまちづくりをより一層発展させていくことが必要となっています。

調布スマートシティ協議会など、産学官民の知見や特性を活かし、創意工夫の下、連携・協働しながら、市における社会的課題の解決に向け、取り組む必要があります。

第2章 まちの将来像

第1節 まちづくりの基本理念

まちづくりの基本理念の考え方

市は、「パラハートちょうふ～つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち」を標榜し、様々な障害に対する理解を深め、一人一人が寄り添う心を持ち、手を取り合って暮らせる共生社会の充実につなげる取組を展開しています。

核兵器の廃絶と世界の恒久平和は人類共通の願いです。市は、非核平和都市宣言及び国際交流平和都市宣言の理念に基づく市民の被爆地への平和派遣などを通じて、戦争の悲惨さ、また平和の尊さを後世に伝えていく様々な取組を市民とともに継続しています。

我が国の社会は、人々の価値観が多様化しています。また、社会のグローバル化や地方分権の進展などにより、地方自治体や市民生活を取り巻く社会経済環境も大きく変わりつつあります。

調布市は、これまで、様々な都市機能を備え利便性が高く、かつ、水と緑といった自然環境と調和したまちとして発展してきました。

また、恒久の平和や一人一人を尊重するという市民の思いを大切にするとともに、ユニバーサルデザインの考え方や地球規模での環境問題などの課題にも対応したまちづくりを実践してきました。

このような中で、これまでのまちづくりの成果を引き継ぎ、市民がいつまでも安心して住み続けたいと思うまち、活気とにぎわいのある人が集まる楽しいまち、そして、人と人とのふれあいや思いやりの心を大切にしながらほっとするぬくもりの感じられるまちをつくっていくとともに、それを次の世代につないでいきます。

こうしたことから、まちづくりの基本的な理念を次のとおり掲げます。

1 個の尊重

すべての人が自分らしく生きていくためには、様々な背景があるすべての人がお互いに生活習慣や文化、価値観等の違いを認め合い、ともに生き、暮らせるよう、人権が尊重されることが必要です。

このため、市は、人間としての存在や尊厳が守られる思いやりに満ちたまち、あらゆる差別を許さないという人権意識が広く社会に浸透したまち、多様性を尊重し、そこから生じる様々な違いに寛容なまちを基本的な考え方として人権施策の推進に取り組み、人権が保障された、安心して、自分らしく生き生きと幸せを感じながら暮らせるまちを目指します。

2 共生の充実

社会のグローバル化が進み、多様な個性や価値観を認め合う社会の実現に向けた取組が求められています。また、地球環境への関心が一層高まる中、地球や身近な自然環境に優しいまちづくりも欠かせません。

そのため、市は、一人一人の人権が尊重され、市民が相互の理解と交流を深める中で平和に暮らせるようにすることと併せて、環境と調和を図ることができる共生のまちづくりを進めます。

3 自治の発展

地方分権が進展する中、地域の実情に応じた対応がより一層求められており、市は、日本国憲法が掲げる地方自治の本旨に基づき、自治によるまちづくりを進め、活力ある地域社会を実現するため、平成24年12月に調布市自治の理念と市政運営に関する基本条例を策定しました。

市民一人一人が、まちづくりの主体として、これまで以上に自分たちのまちは自分たちでつくるという自主・自立の精神と責任を持って、共に力を合わせ、まちづくりを主体的に進めていきます。

第2節 まちの将来像

共生社会への想いを大切にし、産学官民の多様な主体が連携し、多様な生き方、にぎわいやうるおい、地域の特性や資源など、様々な魅力に満ちた、彩りのまちを目指します。

このため、まちの将来像を

『ともに生き ともに創る 彩りのまち調布』

とし、みんなで力を合わせて、まちづくりを進めます。

第3節 目標年度

この基本構想は、令和12年度（西暦2030年度）を目標年次とします。

第4節 人口規模

調布市の総人口は、良好な住環境や都心に近く交通至便という立地特性などから、今日まで増加し続けてきましたが、令和2年以降、伸びが鈍化しています。

こうした中、第6次基本構想の計画期間において、調布市の人口は、令和12（2030）年の総人口、約24万2000人をピークとして減少傾向に転じることを見込んでおり、人口減少局面を見据えたまちづくりを進めるものとします。

第5節 まちづくりの基本目標

まちの将来像「ともに生き ともに創る 彩りのまち調布」の実現に向け、次の8つの基本目標のもと、まちづくりを進めます。

1 安全に安心して住み続けられるために

平時から市民一人一人が地域の災害リスクを意識し、災害時には、共に助け合うとともに、地域ぐるみで犯罪の発生を未然に防止するための活動が活発に展開され、災害や犯罪から守ることができるまちを目指します。

2 安心して子どもを産み育てられ、将来を担う子ども・若者が力を発揮できるために

地域の中で安心して出産や子育てをしたくなるまち、そしてすべての子どもや若者が様々な学びや社会経験を得られ、それぞれの個性が尊重される、自由に夢を描けるまちを目指します。

3 みんなで支え合い、いつまでも心穏やかに暮らすために

だれもがそれぞれに合った心と体の健康づくりができ、地域の中で支え合いながら、ありのままに暮らし続けられるまちを目指します。

4 学びやスポーツを通じ、だれもが充実した毎日を過ごすために

市民一人一人が、気軽に学習やスポーツに取り組み、心豊かに生き活きと過ごせるまちを目指します。

5 多様性を認め合い、安心して自分らしく暮らせるために

人権を尊重し、平和を守り続けることの大切さを未来に継承します。また、多様性を認め合い、様々なつながりの中で、だれもが自分らしくいられるまちを目指します。

6 調布ならではの魅力にあふれ、活気に満ちたまちにするために

既存の産業を支えつつ、多様な主体の挑戦や連携を後押しすることで、新たな価値を生み出し、発展するまちを目指します。また、魅力を活かし、市民が誇りや愛着を感じられるまちを目指します。

7 地域の特徴を活かした快適で利便性に富むまちをつくるために

各地域の特徴を活かしながら、にぎわいや活力のある市街地と快適な暮らしを送れる住環境が形成されるとともに、だれもが安全で円滑に移動できる道路・交通環境が整ったまちを目指します。

8 豊かな自然と人が共生する、持続可能なまちをつくるために

2050年に向けて持続可能な脱炭素・循環型社会を形成するとともに、大切な自然をみんなでも守り、活かすまちを目指します。

第3章 分野別の将来像とまちづくりの基本方向

基本目標の達成に向けて、次のとおり具体的な施策の基本方向を明らかにし、計画的かつ総合的なまちづくりを推進します。

第1節 基本目標1【防災，防犯】

安全に安心して住み続けられるために

1 日頃から災害に備え，互いに助け合うまち【防災】

市民の尊い生命と大切な財産を守るため，震災や風水害等の自然災害への防災・減災を図り，行政が行う「公助」に加えて，自らの安全は自らが守る「自助」，地域で共に助け合う「共助」による取組を促進し，ソフト・ハードの両面から安全・安心なまちづくりを進めます。

災害に強い都市基盤の整備や建築物の耐震化を促進するとともに，災害時の連絡体制や避難行動要配慮者支援などの防災体制の充実を図り，防災都市づくりを進めます。

2 みんなが協力して，犯罪を未然に防ぐまち【防犯】

市民一人一人が安全で安心して暮らせるよう，地域や関係機関との連携・協力のもと，地域での防犯体制を強化するとともに，市民の意識啓発や相談体制の充実を図り，犯罪の起こりにくいまちづくりを進めます。

第2節 基本目標2【子育て支援，学校教育，子ども・若者】

安心して子どもを産み育てられ，将来を担う子ども・若者が力を 発揮できるために

1 みんなに見守られ，安心して子どもを産み，育てられるまち【子育て支援】

妊娠期から子育て期にわたる，各ライフステージの状況に応じた切れ目ない支援を実施するとともに，妊娠を希望する方に寄り添った支援に努めます。

市民・企業・医療機関等の様々な主体が連携して子育て支援を実施することで，調布で子どもを産み育てたいと思えるまちづくりを進めます。併せて，市民にとって身近な場所で，子育てに関する相談・支援体制の拡充を図り，地域全体で子育てを行う環境づくりを進めます。

子育て世代包括支援センター等の機能を活かし，妊娠・出産・育児への不安の軽減や虐待の早期発見・予防につなげる取組等を推進します。

子どもの居場所づくりや学習支援，相談体制の整備など，様々な課題を抱えた子どもや家庭に対する支援の充実を図ります。

2 子どもたちの個性が尊重され，安心して学び成長できるまち【学校教育】

それぞれの個性を尊重し，主体的な学びに繋がる学校づくりを目指すとともに，いじめや不登校なども含め子どもたち一人一人に目を向け，個に応じた教育の更なる充実を目指します。また，地域に開かれた学校づくりを進めることによって，地域一体となって，子どもたちが安心して学び成長できるまちづくりを進めます。

平成24（2012）年12月20日に市内の公立小学校で発生した食物アレルギーによる死亡事故を踏まえ，アレルギー専門医等の多様な主体と連携した各種研修や，訓練の充実を図るとともに，食物アレルギー対応マニュアルを活用した，安全・安心な給食の提供に引き続き取り組みます。

3 子ども・若者が，様々な活動や交流を通して，活躍できるまち【子ども・若者】

子ども・若者が，互いに尊重し，支え合うことができる環境づくりを進めるとともに，学びや交流などを通じ，一人一人がありのままを認め合えるまちを目指します。子ども・若者が地域で学び，交流したくなる，魅力ある地域づくりを進めるとともに，行政や地域の取組に参加した子ども・若者の意見や考えが生かせる持続可能な仕組づくりに取り組みます。

ヤングケアラーなど支援を必要とする子ども・若者に対する見守りやケアと併せて，適切な関係機関につなげられる環境づくりに取り組みます。

子ども・若者が，地域とのつながりを得ることで，それぞれが抱える課題を解決できるよう支援に取り組みます。

第3節 基本目標3【福祉（高齢者福祉・障害者福祉・地域福祉）、健康づくり】

みんなで支え合い、いつまでも心穏やかに暮らすために

1 みんなで支え合う、誰一人取り残されない、共に生きるまち【福祉】

多様なニーズや幅広い世代に応じたきめ細かな相談・支援体制の充実を図るとともに、子ども・若者から高齢者まで、様々な困難を抱える方に、**自治会や地区協議会、ボランティアなどと連携して**地域で支え合いながら、居心地の良い居場所づくりを推進し、住み慣れた場所で暮らし続けられるまちづくりを進めます。

高齢者がいつまでも安心して生活できるよう、認知症支援や介護予防事業などを実施するとともに、高齢者と地域のつながりを創出し、地域での見守りの取組を進めます。**また、障害者・児が生活しやすくなるための支援の促進に努めます。**

関係機関が連携し、ケアラーが気軽に相談できる環境づくりに取り組むとともに、その負担を和らげるための支援につなげます。

生きづらさを抱える人が少しでも生活しやすくなるよう、困難を抱える方への理解の促進を図ります。

デジタル技術を活用し、様々な相談・支援に関する情報発信を強化するとともに、市民の情報格差を解消するデジタルディバイド対策を推進します。

誰もが安心して暮らせるよう、障害理解の促進と併せて、ユニバーサルデザインを踏まえた視点から、歩行が困難な方や、ベビーカーの利用者でも利用しやすい施設等のバリアフリー化など、ソフト・ハード両面の整備を促進します。

2 自分に合った健康づくりを通して、心地よくすごせるまち【健康づくり】

スポーツに取り組みやすい環境づくりや生活習慣病予防、がん対策を推進するとともに、地域・医療機関・企業等との連携により、現代の多様化する健康課題を解決し、市民一人一人の理想の健康づくりを実現できるまちづくりを進めます。併せて、これまでの新型コロナウイルスへの対応を踏まえた感染症対策に取り組みます。

がん等に罹患した場合でも、病気やその後の人生と向き合うことができる仕組みを、医療機関や企業等との連携により構築します。

様々なライフステージに応じた食育及び歯と口腔の健康に関する普及啓発と、健康寿命の延伸に向けた健康づくりの取組を推進します。

孤立させない地域づくりによる自殺防止の取組など、一人一人に寄り添ったところの健康づくりを推進します。

第4節 基本目標4【生涯学習、スポーツ・レクリエーション】

学びやスポーツを通じ、だれもが充実した毎日を過ごすために

1 多世代が生涯を通して学び合う、心豊かになれるまち【生涯学習】

だれもが時間や場所にとらわれず、自由かつ主体的に学べる学習環境を充実させるとともに、一人一人の知識や経験、学びの成果を活かし、教え、学べる環境を作ることで、交流を深めながら、心のゆとりと自信を持って暮らせるまちを目指します。

生涯学習に係る情報収集・提供を積極的に行い、学びの機会を通じて市民同士が交流の輪を広げながら、学習の成果を発揮する機会や、生涯学習に取り組むきっかけをつくり、市民の生涯にわたる多様な学びを支援します。

市民が安全・安心かつ快適に学ぶことができるよう、**既存施設**の利便性向上や効果的で効率的な維持管理・運営に取り組みます。

2 生涯にわたってだれもがスポーツに親しみ、生き活きと過ごせるまち【スポーツ・レクリエーション】

国際的なスポーツ大会の開催地として、これまで築き上げてきた様々な主体とのパートナーシップを生かしながら、大会レガシーを継承・発展させていくことで、子どもから大人まで、障害の有無にかかわらずスポーツを「する・みる・支える」機会を創出し、それぞれのライフステージやライフスタイルに応じ、誰もが**生涯にわたり**スポーツに親しむことができるまちを目指します。

スポーツ施設をより効果的かつ効率的に維持管理・運営していくため、老朽化等を踏まえたスポーツ施設の整備に努め、市民が安全・安心かつ快適にスポーツを楽しめる環境の充実を図ります。

市民の健康の保持増進や健康寿命の延伸にも結び付くよう、プロスポーツチームや関係団体等と連携し、市民がスポーツを身近に感じ、スポーツに関心をもち、気軽にスポーツに親しめる機会の創出を図ります。

第5節 基本目標5【共生社会（地域コミュニティ・人権・LGBTQ・多文化共生）、平和】

多様性を認め合い、安心して自分らしく暮らせるために

1 多様性を認め合い、人と人とのつながりのなかで、だれもが自分らしくいられるまち【共生社会】

国籍や言語等の違いを超えて、お互いの個性・特性を認め合いながら、様々なコミュニティのなかで、だれもが自分らしく暮らせるまちを目指します。

性による差別や格差を解消し、地域や社会で活躍できる機会が、だれにでも平等にあるまちを目指します。

地域コミュニティ活動への参加を支援するとともに、より多くの市民ニーズに沿った交流の場を提供できるよう、ICTを活用するなど必要な時に、自分のペースでゆるやかにつながれる取組を推進し、安心して暮らしやすいまちを目指します。

2 戦争について学び、平和への認識を深め、未来につないでいくまち【平和】

戦争体験世代が少なくなっている中であっても、戦争の悲惨さを、教訓として若い世代に語り継いでいくため、市内に残る戦争遺跡の維持・保存や体験談の伝承に取り組むとともに、**ピースメッセンジャー事業**や名誉市民・水木しげる氏の作品などを活用した取組を推進します。

市民が戦争や平和について学ぶ機会を充実させることで、一人一人が平和を大切に思い続けるまちを目指します。

第6節 基本目標6【産業（創業支援・地域経済）、観光、芸術・歴史文化】

調布ならではの魅力にあふれ、活気に満ちたまちにするために

1 だれもが新たなことにチャレンジでき、産業が発展するまち【産業（創業支援・地域経済）】

まちの活力を高めるために、様々な産業分野における新たなチャレンジを応援するとともに、産学官民の連携を通じて、よりよい未来に向けて発展していくまちを目指します。

市内事業者への支援、観光施策と連動した消費喚起の促進等による地域経済の活性化に取り組み、活発な経済活動が持続的に循環・発展していくまちを目指します。併せて、市内農業者への支援や、多様な農業体験の場を通じた都市農業への理解促進等、都市農業の持続的な振興を推進します。

2 調布ならではの魅力でみんなをわくわくさせる、にぎわいのあるまち【観光】

「古刹・深大寺」、「映画のまち調布」、「水木マンガの生まれた街 調布」などの地域資源を磨き上げるとともに、市内外に向けて、調布ならではの魅力を効果的にPRすることで、多くの人々の好奇心を刺激し、にぎわいのあるまちを目指します。

3 郷土や歴史に愛着を持ち、地域の芸術文化を発展させていくまち【芸術・歴史文化】

地域の有形・無形の歴史的・文化的資源を守り、それらへの理解や愛着を深めるとともに、**利便性の高い立地を生かした施設整備により**、幅広い世代の市民が様々な優れた芸術・文化にいつでも触れられる機会に恵まれ、市民主体の芸術・文化活動が盛んなまちを目指します。

だれもが、いつでも気軽に芸術や歴史・文化に触れられる環境づくりを推進し、市民が芸術や歴史文化により高い関心を持つことができるまちを目指します。

第7節 基本目標7【市街地整備（駅周辺・住宅・景観）、交通環境・道路整備】

地域の特徴を活かした快適で利便性に富むまちをつくるために

1 地域ごとの特徴を活かした、快適で利便性に富み住み続けられるまち【市街地整備】

各地域の特徴や魅力を最大限に引き出し、市内外から多くの人が集い、憩い、賑わいが創出されるまちづくりを進めます。また、京王線の地下化によって創出された駅前広場及び鉄道敷地の整備を着実に推進し、魅力ある都市空間の形成を目指します。

調布らしいおおいのある魅力的な景観を形成するとともに、だれもが安心して暮らすことができる良質な住環境の整備に取り組みます。

2 だれもが安全で円滑に移動できる、交通環境が整ったまち【交通環境・道路整備】

都市計画道路や生活道路の整備を進め、地域の特徴に応じた道路ネットワークを形成するとともに、歩行者や自転車利用者が安全・便利に移動できるまちづくりを進めます。

併せて、東部地域における開かずの踏切対策をはじめとした交通環境の改善を図るため、連続立体交差事業を視野に入れた取組の検討・推進を図ります。

また、シェアサイクルや**デマンド交通など**デジタル技術を活用した交通サービスに加え、**これらのサービスを組み合わせたMaaSの導入促進など**、地域の特性を踏まえた公共交通ネットワークの構築による市内の交通利便性の向上を図ります。

第8節 基本目標8【環境保全，緑・農地・水辺・公園】

豊かな自然と人が共生する、持続可能なまちをつくるために

1 脱炭素・循環型社会へ変革し、気候変動の抑制に貢献するまち【環境保全】

産学官民一体となり、ゼロカーボンの実現に向け、持続可能な脱炭素社会・循環型社会を構築することで、世界規模での喫緊の課題である気候変動の抑制に貢献できる環境にやさしいまちづくりを進めます。その中で、公共施設の老朽化対策や長寿命化を進めるに当たっては、再生可能エネルギーの利活用をはじめとするゼロカーボンを目指した整備に取り組みます。

また、次代を担う子どもたちに良好な環境を残せるよう、環境学習や環境保全活動の充実を図ることで、**市民や事業者へのさらなる意識啓発につなげる**とともに、ごみの減量・適正処理を推進し、持続可能な環境都市の構築に取り組みます。

2 豊かな自然と人が調和し、水や緑を活かす、やすらぎのあるまち【緑・農地・水辺・公園】

豊かでぬくもりのある自然環境を次世代に継承するため、水と緑を創り、守り、育て、人と自然が共生するまちづくりを進めます。併せて、自然環境が有する機能を活用して、地域の魅力・居住環境の向上や防災・減災等の多様な効果を得るグリーンインフラの考え方を取り入れた取組を推進します。

また、身近な交流・憩いの場として、子どもから高齢者、**障害者など**だれもが使いやすい公園の整備を進めるとともに、緑地の整備や都市農地の保全に取り組みます。多様な主体と連携し、公園や農地、水辺環境の新たな魅力づくりを通して、市民が集い、憩いのあるまちづくりに取り組みます。

第4章 まちの将来像の実現に向けて

この基本構想に掲げるまちの将来像「ともに生き ともに創る 彩りのまち調布」の実現に向け、調布市自治の理念と市政運営に関する基本条例に規定した、自分たちのまちは自分たちでつくるという自主自立の精神と責任を持って、共に力を合わせながらまちづくりに取り組んでいかなければなりません。そのため、まちづくりの実践に当たっては、次のことを基本的な姿勢とします。

第1節 市民が主役のまちづくり

まちづくりの主役は市民です。個人、団体、地域、目的を問わず、まちづくりの多様な主体が互いを尊重し、支え合い、相互理解に基づく連帯の輪を広げながら、豊かな地域社会の実現を目指していきます。

1 共創のまちづくりの推進

市民と行政の適切な役割分担や連携の下、参加と協働による共創のまちづくりをより一層推進していきます。そのため、コロナ禍による状況の変化を捉えた参加手法の見直しや創意工夫に継続して取り組んでいきます。

持続的な社会課題の解決に向け、デジタル技術の活用等による産学官民が連携・協働した取組を進めていきます。

2 情報の発信・共有化

市民と行政の信頼関係に基づくまちづくりを進めるため、市政に関する情報の発信・共有化を推進し、行政の透明化を図ります。とりわけ、デジタルディバイド対策と併行した、デジタル機器の取扱いに不慣れな高齢者や障害者などへのきめ細かな情報共有に努めます。併せて、市民の主体的なまちづくりに関する情報についても発信・共有化を推進します。

第2節 市民のための市役所づくり

市民に最も身近な基礎自治体として、デジタルトランスフォーメーション（DX）などの時代の変化や多様化する市民のニーズに的確かつ柔軟に対応可能な市民の視点に立った市民のための市役所づくりを進めます。

1 組織体制の整備

市民に分かりやすく簡素で効率的な組織体制を整備します。また、新たな行政課題や組織の枠組みを超えた取組が必要な課題に、機動的に対処できるよう部署間の連携を強化し、施策の効果的な展開が図れるような組織の実現を目指します。

2 行政のデジタル化推進

行政におけるデジタル技術の活用を加速させることにより、市民の利便性の向上を図るとともに、行政事務の簡素化・効率化に取り組みます。なお、その過程においては、専門人材の確保・育成とデジタルディバイド対策に留意します。

3 人材の確保と育成

職員一人一人が、市民に信頼され、市政の担い手として意欲を持って職務に取り組むことができ、急速な時代の変化にも迅速・的確に対応できるよう、採用、研修、自己啓発等を通じて、これからのまちづくりに必要な人材の確保と育成を図ります。

仕事と生活の調和を図り、介護や育児等の様々な事情を持つ職員をはじめ、全ての職員がそれぞれの能力を十分に発揮し、活躍できる職場環境づくりを進めます。また、女性の視点をより市政に活かしていくため、様々な取組を通じ、一層の女性職員の活躍を推進していきます。

4 他自治体等との連携・協力

市民の生活圏の拡大や広域的な行政課題の増加等に対応するため、共通する課題や目的に応じ、多摩地域の自治体や姉妹都市等との連携・交流を促進し、適切な市民サービスの提供や行政の効率化を進めます。

第3節 計画的な行政の推進

地方自治体を取り巻く環境は厳しさを増しています。将来にわたり安定的に市政経営を行い、市民サービスを提供していくためには、限られた経営資源を計画的かつ効果的・効率的に活用していく必要があります。そのため、計画・行革・予算が一体となった市政経営を推進します。

1 基本計画の策定

この基本構想に基づく具体的な取組を進めるうえでの指針となる基本計画を策定し、総合的かつ計画的にまちづくりを進めていきます。一方、社会状況の変化等に対して計画を見直すなどの柔軟な対応を図っていきます。

2 健全な財政運営と行政改革の推進

基本計画の策定・推進に当たっては、将来の世代に過大な負担を掛けることがないように、健全な財政を維持し、中長期的な財政の見通しを持ち、財政基盤の強化に努めるとともに、事業の調整等を行います。

社会の変化等に柔軟に対応し、質の高い市民サービスを継続的に提供するため、不断の行財政改革に取り組みます。

3 ファシリティ・マネジメントの推進

市が保有する公共施設及びインフラの老朽化に対応し、長期にわたり安全に安心して利用できるよう、民間活力を活用し、サービスとコストの最適化を図りつつ、計画的な維持保全・更新に取り組めます。

4 行政評価による行財政運営

まちづくりにおける個別の施策や事務事業については、その目的、優先性、成果、効率性などについて、行政評価により検証し、改善等を図ります。なお、評価結果や事業等の見直しについては、市民に分かりやすく示すとともに、理解を得ながら取組を進めていきます。